

◇親子の会話が少なくなってしまった生徒

【Q】 中学校2年生の男子の保護者です。小学生のときは何でも話してくれましたが、中学生になるとだんだん話さなくなり、最近は、ほとんど親子の会話がありません。何か悩みがあるのか心配です。母親としてどう接したらよいか助言をお願いします。

【A】 今まで何でも話してくれたお子さんが中学生になり、口数が少なくなっていて心配だというお話をよく耳にします。お母さんとしては、どう接したらよいかわからず不安ですね。次のようなことに気を付けて、対応なさってはいかがでしょうか。

①ゆったり構える

男の子にとって、中学校2年生は二次性徴期と重なります。心と身体のバランスに変化が生じ、体の成長に心の変化が追いつかず、敏感で不安定な時期です。また、家族から離れて、社会に出て行こうとする親離れの時期でもあります。

しかし、子どもはこれらのことを、ことばで上手に説明できないのです。無口になることはだれにでも見られる成長過程であると受け止め、ゆったりと構えてください。

②気軽に話せる親子関係づくりに努める

思春期における子育てでは、家族が積極的にかかわることにより、子どもが気楽に話せる親子関係を築くことが大切です。

例えば、食事の時間に、世間話やお子さんの興味あることなどを話題にして、家族団らんの時間をつくりましょう。無理に聞き出そうとしなくても、自分が受け入れてもらっていると安心感を持ったとき、自分から悩みごとや相談したいことを話してくれるものです。

③学校生活に適応できているか確認する

お子さんの健やかな成長には、学校と家庭が連携を図ることが大切です。友人関係や学習、部活動等の様子を担任や担当の先生にお尋ねになってはいかがでしょうか。お子さんの学校での様子がわかり、何か悩みごとがあるか把握できると思います。

また、中学校では、日常的な相談にはさわやか相談員が、専門的な心の問題等にはスクールカウンセラーが対応しています。各中学校のさわやか相談室には、直通の電話が設置され、保護者の相談にも対応しています。気楽な気持ちでご活用ください。

さらにふだんから、お子さんの友達の保護者と、学校の様子や友達関係の情報を交換するなど、保護者どうしのネットワークづくりをしておく、子どもの理解にも役立つでしょう。